

氏名	高 屋 正 敏
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1369 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Sjögren 病の病因と治療に関する研究 第 1 編 Sjögren 病患者末梢血単球の赤血球貪食能 第 2 編 Sjögren 病単独例に対する副腎皮質ホルモン剤の効果
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

Sjögren 病は、涙腺、唾液腺の慢性炎症を特徴とする自己免疫疾患と考えられている。

単球は、抗原補捉、抗原情報の伝達あるいはリンパ球との協同作用を通じ免疫応答に重要な役割をはたすと考えられているが、第 1 編では Sjögren 病患者末梢血単球の機能を評価するため、Fc レセプターを介する赤血球貪食能を測定した。Sjögren 病単独例では単球の貪食能は健常人と差を認めなかったが、全身性エリテマトーデスあるいは慢性関節リウマチを合併する Sjögren 病患者で貪食能の低下する傾向を認めた。

第 2 編では Sjögren 病に対する副腎皮質ホルモン剤の効果について、Sjögren 病単独例 29 例（投与例 19 例、非投与例 10 例）を対象として検討した。発熱、関節痛、眼球乾燥症状、赤沈値あるいは γ -グロブリン量は、副腎皮質ホルモン剤投与により改善を認めたが、耳下腺腫脹に対する効果は不定で、Raynaud 現象、唾液分泌、涙液分泌機能および耳下腺造影所見などは改善されず各種自己抗体も陰性化しなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は Sjögren 病の病因と治療を臨床的に研究したものであり、病因については免疫的立場より Fc レセプターを介する赤血球貪食能の面より追求し、治療は副腎皮質ホルモン投与の効果についてである。これらの研究によって或る種の本疾患には免疫学的異常が認められ、副腎皮質ホルモンは発熱、関節痛、 γ -グロブリン量等に有効であ

ることを明らかにした。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。